

II



古典を通して考える 【自由と資本主義】

講師

慶應義塾大学商学部教授

菊澤 研宗

Kensyu Kikuzawa

講師プロフィール

1986年慶應義塾大学大学院商学研究科博士課程修了。防衛大学校教授、中央大学大学院国際会計研究科教授を経て現職。経営哲学学会会長。

専門は組織の経済学、戦略の経済学、比較経営論、比較コーポレート・ガバナンス論。

●主な著書

『組織の不条理』、『戦略学—立体的戦略の原理』(ともにダイヤモンド社)

課題図書 (配布)

『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』
マックス・ヴェーバー著

講座概要

近代以降の社会システムは、「自由」と「資本主義」を思想的基盤として成立し、大きな発展を遂げてきました。一方で現代社会は、実体経済の急減速にみるように、近代思想が内包する矛盾や脆弱性の存在に気づき始めています。

不完全ではあっても上手に付き合っていかなければならない「自由」と「資本主義」の来し方・行く末、多様性・発展性について、M・ヴェーバーの名著『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』(通称『プロ倫』)を通して考え、議論します。

菊澤 研宗

第1回
10/15(木)

18:30~21:30

いまなぜ 『プロ倫』なのか

資本主義の弱点が明示化されるとともに、グローバリズムに伴う仕事観・労働観の多様性が注目される今こそ、『プロ倫』に着目したいことを確認します。

また、特に近代資本主義のエートス(精神)として、プロテスタンティズムの天職概念があったとするヴェーバーの論旨を確認し、その歴史的な位置づけを理解します。

第2回
10/29(木)

18:30~21:30

なぜ、働くのか、 なぜ経営するのか

進化論の考え方而言えば、経営の成功は環境に拠っています。戦略や組織を超越した「運」で決まるとも言えるのかもしれませんが。

では、成功が運次第とわかった上で、私達は、なぜ働くのでしょうか。人生と仕事における幸せとは何かを考えます。

第3回
11/12(木)

18:30~21:30

精神なき資本主義の 彷徨

『プロ倫』が書かれて100年。今回の経済危機は、ヴェーバーが予見したように「精神なき資本主義」の行き着く先が、営利追求の自己目的化であることを露呈しました。

では、私達は消滅したエートス(精神)に代えて、何をもって資本主義の不条理を制御していくべきなのでしょう。新たな倫理観について議論します。

お勧めしたい方

- 自由と資本主義について深く思索し、議論したい方
- 経済・社会思想に関わる古典をじっくりと読み込みたい方

慶應丸の内シティキャンパス

タ学プレミアム

agora

講座の特徴

古典を通して「いま」と「自分」を考える

目まぐるしい日常から距離を置き、古典の普遍的価値に触れ、深く思索し、多角的な議論を交わすことで、社会の現象や自分達の問題を捉え直し、これから進むべき道について考えます。

『プロテスタンティズムの倫理と資本主義の精神』 (通称『プロ倫』)

M・ヴェーバーはこの本で、西欧資本主義の勃興・発展を可能にしたエートス(精神)として、プロテスタンティズムの存在を指摘しました。本書の主張は、近代の社会システムや私達の仕事観・労働観の形成を考える上で、多くの示唆を与えてくれます。

開催概要

日程	2009年10/15、10/29、11/12、 11/26、12/10、12/17 (すべて木曜日)
回数	6回
時間	18:30 ~ 21:30 (3時間)
定員	25名
会場	慶應丸の内シティキャンパス
参加費	105,000円(税込)

第4回
11/26(木)

18:30~21:30

新自由主義の論理 ハイエクの自生的秩序論

ゲスト講師 山中 優 皇學館大学社会福祉学部准教授

新自由主義の代表ハイエクは、自由な行動と市場システムに委ねること、自生的秩序が生まれることを主張しました。一方で、その前提として、自由社会に住まう人々の従うべき「自由の規律」が必要であることも指摘しています。

ハイエクの理論を通して新自由主義の論理を考えます。

第5回
12/10(木)

18:30~21:30

東洋思想から見る 仕事観・労働観

ゲスト講師 田口 佳史 東洋思想研究者、株式会社イメージプラン代表取締役社長

西欧社会の仕事観・労働観のエートスが『プロ倫』だとすれば、東洋社会、ひいては日本のそれは何なのでしょう。

四書五経、老荘思想など、日本の仕事観・労働観の基盤をなす東洋思想を通して考えてみます。

第6回
12/17(木)

18:30~21:30

二つの資本主義 福澤諭吉と渋沢栄一

ゲスト講師 由井 常彦 財団法人三井文庫 常務理事・文庫長

近代日本には二つの資本主義があるといわれます。福澤諭吉が提唱した英米型の「開明的資本主義」と渋沢栄一が実践した「官民一体型資本主義」です。二つの資本主義の間を揺れ動いてきた日本の150年を振り返りつつ、今回の経済危機を経て、日本はどのような資本主義を選び取るのか、その中で私達は働くのかを考えます。